

CASBEE-建築(新築)2016年版  
舞鶴市西消防署庁舎

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>					<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.2</b>	<b>0.15</b>		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-
1.2 遮音		3.0	0.40		
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-
1.3 吸音	床:カーペット、天井:岩綿吸音板	4.0	0.20	3.0	-
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.7</b>	<b>0.35</b>		<b>2.7</b>
2.1 室温制御		3.2	0.50		
1 室温		3.0	0.38	3.0	-
2 外皮性能	庇、目隠しレンガの設置	4.0	0.25	3.0	-
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	-
2.3 空調方式	天井カセット形 パッケージ空調方式	3.0	0.30	3.0	-
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.8</b>	<b>0.25</b>		<b>3.8</b>
3.1 屋光利用		4.2	0.30		
1 屋光率	屋光率=2.9%	5.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口		-	-	3.0	-
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策		4.0	0.30		
1 屋光制御	ブラインド+庇+レンガスクリーンの設置	4.0	1.00	3.0	-
3.3 照度	事務室照度750Lx	4.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.3</b>	<b>0.25</b>		<b>4.3</b>
4.1 発生源対策		5.0	0.50		
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	5.0	1.00	3.0	-
4.2 換気		4.0	0.30		
1 換気量	30m3/h人	5.0	0.33	5.0	-
2 自然換気性能	自換気有効開口面積率=6.0%	4.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-
4.3 運用管理		3.0	0.20		
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		
2 喫煙の制御		3.0	0.50		
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>		<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.1</b>	<b>0.40</b>		<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40		
1 広さ・収納性	3階事務室他 合計執務スペース 11.46㎡/人	4.0	0.33	3.0	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30		
1 広さ感・景観	3階事務室天井高=2.8m	4.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース	3階リフレッシュスペースの割合=5.9%	4.0	0.33		
3 内装計画	舞鶴の「防-まもり-の核」となる消防庁舎をコンセプトに掲げ総合	5.0	0.33	3.0	-
1.3 維持管理		5.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計	高耐久内装材(ビニルクロス、ビニルタイル、無機系塗床等)、高耐	5.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保	窓清掃や設備メンテナンスに利用可能なバルコニーを四周に配置	5.0	0.50		
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.2</b>	<b>0.30</b>		<b>4.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.6	0.50		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。	5.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	レンガ	5.0	0.20		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床タイル	5.0	0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		
2.4 信頼性		4.2	0.20		
1 空調・換気設備	換気・空調設備の系統区分、配管の地震対策を行っている。	5.0	0.20		
2 給排水・衛生設備	節水型器具、配管の系統区分、汚水ピットの設置を行っている。	5.0	0.20		
3 電気設備		3.0	0.20		
4 機械・配管支持方法	設計用水平震度KHを2.0としている。	5.0	0.20		
5 通信・情報設備		3.0	0.20		

3	対応性・更新性		3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高=4.2m	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.29	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.7
1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	舞鶴赤レンガ倉庫群をモチーフとしたレンガスクリーンを設置	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	赤レンガ舗装、草寄せ庇、市民講習に利用する講堂、光庭の配置	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.9
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.67	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	トップライト、ハイサイドライト、二方向以上の開口を計画している。	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	-	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.7
1	水資源保護		3.8	0.20	-	-	3.8
	1.1 節水	節水型器具を採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	西側敷地で雨水貯留し消防訓練に活用	4.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60	-	-	3.6
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、ビニル床タイル、ビニル床シート	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	フリーアクセスフロア	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.0	0.20	-	-	4.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	ビニル床タイル接着剤	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	動力消防ポンプ	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	不燃吹付断熱材	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	R-410A	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出率70%	4.1	0.33	-	-	4.1
2	地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	中央道路に車両出入口を集約	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別回収が可能な容器、ストックスペースを計画している。	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	
	2 振動		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満たしている。	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	窓前面にレンガスクリーンを配置	4.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0		-	○	○	○	○	○	-	○	-	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0		-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		2.0	2.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	1.0	1.0	3.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSG 0.5 窓の日射熱取得率(η) 0.4 U値(W/m2K) 窓システム 1.8 屋根 1.0 外壁 1.0 床 1.0 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 屋光率 2.9% 自然換気有効開口面積率 6.0%
3.1.1 屋光率	執務スペース 11.5㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
4.2.2 自然換気性能	コンセント容量 30.0 VA/㎡
Q2 サービス性能	天井高 2.8 m
1.1.1 広さ・収納性	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
1.1.2 高度情報通信設備対応	想定耐用年数 30年
1.2.1 広さ感・景観	想定必要間隔 更新不要年
1.2.2 リフレッシュスペース	想定必要間隔 20年
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定必要間隔 0年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	階高 4.2 m
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	壁長さ比率 28.0%
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	床荷重 4000 N/㎡
3.1.1 階高のゆとり	
3.1.2 空間の形状・自由さ	
3.2 荷重のゆとり	
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数 17% 建物緑化指数 0%
1 生物資源の保全と創出	空地率 66% 水平投影面積率 8% 地表面対策面積率 10% 舗装面積率 46%
3.2 敷地内温熱環境の向上	
LR1 エネルギー	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.67 断熱等性能等級 等級2相当
1 建物外皮の熱負荷抑制	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%
2 自然エネルギー利用	通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.59 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	雨水利用率 0.0%
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	使用比率 5.0%
2.5 持続可能な森林から産出された木材	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090
3.2.3 冷媒	
LR3 敷地外環境	見付面積比 64% 隣棟間隔指標Rw 1.06
2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率 10.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%
	見付面積S <sub>b</sub> 591㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> 75.19 m 基準高さH <sub>b</sub> 12.22 m
	緑地 351㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡